

2024年度企画展スケジュール

社会の綻びを繕い、心を繋げる、回復や再生のためのエネルギー

パンデミックや戦争は世界各地で社会の綻びを明らかにし、私たちの感情を揺さぶってきました。森美術館は、現代美術館として引き続き世界の歴史、社会、価値観の多様性を映し出ししながら、なお、私たちが共に生きるために何ができるのかを問いたいと考え、2024年度には2本の大規模個展「シアスター・ゲイツ展」、 「ルイズ・ブルジョワ展」を開催します。

米国シカゴを拠点に活動するシアスター・ゲイツ(1973年～)は、都市デザインと陶芸などを学び、彫刻、インスタレーション、地域再生プロジェクトなどジャンルを横断する活動で世界の現代アート界から高く評価されています。近年は「アフロ民藝」というコンセプトで、ブラック・カルチャーと日本文化の接続を試み、また、国際芸術祭「あいち2022」では、自身が20年前に陶芸を学んだ常滑市で旧丸利陶管の住宅部分を改装し、インスタレーションとして展示しました。アジア初の大規模個展となる今回の個展では、シカゴ・常滑・東京を繋ぎ、ゲイツ芸術の全貌を明らかにします。

六本木ヒルズの蜘蛛の彫刻《ママン》で知られるルイズ・ブルジョワ(1911～2010年)。日本における大規模な個展は、1997年以来27年ぶりです。1938年にパリからニューヨークに移住したブルジョワは、近年再評価が高まる女性アーティストのパイオニアとして、また、20世紀を代表する彫刻家として歴史にその名を刻んでいます。愛情、嫉妬、怒り、不安など多様な感情が絡み合う彼女の実践は、今日の私たちの心にも強く響きます。

この2本の展覧会が、社会の綻びを繕い、人々の心を繋げる、回復や再生のためのエネルギーを私たちにもたらしてくれることを願っています。

森美術館 館長 片岡真実

シアスター・ゲイツ展

会期：2024年4月24日[水]－9月1日[日]

シアスター・ゲイツ
《ザ・リスニング・ハウス》
2022年
展示風景：国際芸術祭「あいち2022」
撮影：ToLoLo studio



ルイズ・ブルジョワ展

会期：2024年9月25日[水]－2025年1月19日[日]

ルイズ・ブルジョワ
《ママン》
1999/2002年
ブロンズ、ステンレス、大理石
9.27 × 8.91 × 10.23 m
所蔵：森ビル株式会社(東京)



プレスリリース お問い合わせ 森美術館広報事務局(共同ピーアール内)：日比、松川、伊原
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

シアスター・ゲイツ展

会期：2024年4月24日[水]－9月1日[日]

会場：森美術館（六本木ヒルズ森タワー53階）

主催：森美術館

企画：徳山拓一（森美術館アソシエイト・キュレーター）、片岡真実（森美術館館長）

米国シカゴのサウスサイド地区を拠点に国際的に活躍するシアスター・ゲイツ（1973年シカゴ生まれ）は、彫刻と陶芸作品を中心に、建築、音楽、パフォーマンス、ファッション、デザインなど、メディアやジャンルを横断する活動で知られています。

本展はゲイツにとって日本初、そしてアジア最大規模の個展となります。これまでの代表作のみならず、本展のための新作を含む、日本文化に関係の深い作品も紹介します。自身の創作の原点ともいえるべき、愛知県常滑市で制作した陶芸作品やプロジェクトから、日本の民藝運動と黒人文化の美学を融合するゲイツ独自の哲学である「アフロ民藝」まで、多岐にわたる作品と活動を幅広く展示します。

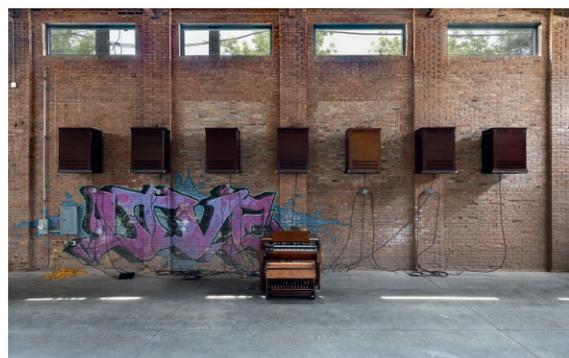
ゲイツは、土という素材、客体性（鑑賞者との関係性）、空間と物質性などの視覚芸術理論を用いて、ブラックネス（黒人であること）の複雑さを巧みに表現します。黒人文化やその歴史は、日本人の一般的な知識としては希薄かもしれませんが。しかし本展は、ゲイツのこれまでの作品と実践を網羅的に紹介することで、手仕事、人種への問い、政治、文化のハイブリッド性などを謳うアートの今日的な重要性を伝えます。

シアスター・ゲイツ略歴

1973年、米国イリノイ州シカゴ生まれ、同地在住。アイオワ州立大学と南アフリカのケープタウン大学で都市デザイン、陶芸、宗教学、視覚芸術を学ぶ。2004年、愛知県常滑市「とこなめ国際やきものホームステイ」(IWCAT)への参加を機に、現在まで20年にわたり常滑市の陶磁器の文化的価値と伝統に敬意と強い関心を持ち、陶芸家や地域の人々と関係を築いてきた。近年の主な個展に、ニュー・ミュージアム（ニューヨーク、2022-2023年）、サーペンタイン・パビリオン（ロンドン、2022年）、ホワイトチャペル・ギャラリー（ロンドン、2021年）、ウォーカー・アート・センター（ミネアポリス、2019-2020年）、マルティン・グロピウス・バウ（ベルリン、2019年）、パレ・ド・トーキョー（パリ、2019年）、プラダ財団（ミラノ、2018年）などがある。日本では、国際芸術祭「あいち2022」に出展、2019年には公益財団法人大林財団「都市のヴィジョン」の助成対象者として選出され、国内でリサーチプロジェクトを実施した。



撮影：田山達之



【左】
シアスター・ゲイツ
《ヘヴンリー・コード》
2022年
レスリースピーカー、ハモンドオルガン[B-3]、サウンド
サイズ可変
撮影：ジム・プリンツ・フォトグラフィ

【右】
シアスター・ゲイツ
《ドリス様式神殿》
2022年
高火度磁器、釉薬
サイズ可変
展示風景：「シアスター・ゲイツ
展：ヤング・ローズと彼らの軌跡」
ニュー・ミュージアム（ニューヨーク）、2022-2023年
撮影：クリス・ストロング

プレスリリース お問い合わせ 森美術館広報事務局（共同ピーアール内）：日比、松川、伊原
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

ルイズ・ブルジョワ展

会期：2024 年 9 月 25 日[水] – 2025 年 1 月 19 日[日]

会場：森美術館（六本木ヒルズ森タワー53階）

主催：森美術館

企画：椿 玲子（森美術館キュレーター）、矢作 学（森美術館アシスタント・キュレーター）

ルイズ・ブルジョワ（1911 年パリ生まれ、2010 年ニューヨークにて没）は、20 世紀から 21 世紀にわたって活躍した最も重要なアーティストの一人です。70 年にわたるキャリアの中で、ブルジョワは感情や心理状態の多面性をさまざまなメディアで表現し、感情の起伏と稀有な造形力を融合させた孤高の作品群を生み出してきました。

本展は、ブルジョワの日本における 27 年ぶりの大規模個展として、絵画、版画、素描、彫刻、インスタレーション、遺稿などを紹介し、その活動の全貌に迫ります。とりわけ 1938 年から 1949 年までの絵画作品の数々は、東アジアでは初めての紹介となります。この初期の絵画群は、その重要性が最近になってようやく認識されるようになりましたが、ブルジョワがその後数十年にわたって描き続けることになる造形と主題をすでに確立していることがうかがえる、大変興味深いものです。さらに、「蜘蛛」を題材としたシリーズを紹介することで、六本木ヒルズのパブリックアート作品《ママン》に込められた「母の愛」、「治癒の力」や「記憶」などのテーマを探求します。

「アートは心の健康を保証するもの」という自身の言葉が表すように、ブルジョワの生きることへの強い意志を表現する作品は、世界的なパンデミックによる健康危機の後、あるいは緊迫した国際情勢の下、私たちが直面するさまざまな課題を生き抜くための、重要なヒントを与えてくれるでしょう。

ルイズ・ブルジョワ略歴

1911 年にパリでタペストリー・ギャラリーと修復アトリエを営む家の次女として生まれる。1938 年にニューヨークに移住。1940 年代から作品を発表し始め、1957 年にはアメリカの市民権を取得。1982 年に女性彫刻家としてニューヨーク近代美術館で初の大規模個展を開催。1989 年にはヨーロッパでの初個展をフランクフルト芸術協会で開催。以後、世界中の美術館や国際展に参加。2010 年の世界後、テート・モダン、ソフィア王妃芸術センター、龍美術館、その他世界の主要美術館で大規模な個展を開催している。



ルイズ・ブルジョワ
《ママン》
1999 / 2002 年
ブロンズ、ステンレス、大理石
9.27 × 8.91 × 10.23 m
所蔵：森ビル株式会社（東京）

最新のプレス画像は、こちらの URL より申請、ダウンロードいただけます。

<https://tayori.com/f/fy2024/>

プレスリリース お問い合わせ 森美術館広報事務局（共同ピーアール内）：日比、松川、伊原
Tel: 03-6264-2039 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp